

# ミクロネシア連邦・グアムにおける研修

—グローバルな視野で島問題に関心—

付莎莎（人文社会科学研究科）

## 1. はじめに

ミクロネシアは太平洋のなかで最も日本に近い赤道以北の地域の名称で、東経130～175度の間を指す。そこには2300を超す島が散在するが、その陸地総面積は2851平方キロメートルしかない。まさにギリシャ語で「小さい島」という意味の名称がピッタリの地域である。地域的にミクロネシアの島は四つの諸島群と一つの孤島から構成されている。マリアナ諸島、カロリン諸島、マーシャル諸島、ギルバート諸島、及びマウル島である。政治的にチューク・ヤップ・ポンペイ・コスラエからなるミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国、ナウル共和国、キリバス共和国、グアム、ウェーク島の四つの政治単位から構成されている。

## 2、太平洋島嶼学特論

太平洋島嶼学特論とはミクロネシア連邦及びグアムにおける海外研修を中心とすること。ミクロネシアの歴史・社会・文化・経済を現地で学ぶとともに、日本を含めたアジア・オセアニアに広がる根菜農業文化を理解する。小さな島で自給自足生活を体験・実践することで、「生存基盤とは何か」を再確認する。

### 研修プログラム

1日目	9月3日	土	博多に集合
2日目	9月4日	日	福岡⇒グアム⇒ウェノ島、ウェノ島宿泊
3日目	9月5日	月	ウェノ島市場見学・調査（午前）、ウェノ島⇒ピス島
4日目	9月6日	火	ピス島⇒無人島、無人島で漁業と食物調理の実践・調査、ピス島に帰る
5日目	9月7日	水	ピス島⇒ウェノ島、トノアス島で戦争戦跡見学
6日目	9月8日	木	ウェノ島⇒グアム、島民と交流、自然や文化体験
7日目	9月9日	金	グアムの南部を周り、チャモロ文化村で自然や文化体験、グアム大学
8日目	9月10日	土	島民と交流、自然や文化体験



### 3、ミクロネシア連邦とグアム

#### (1) 歴史

太平洋戦争後、ミクロネシアの人々とも多くの関係者も、ミクロネシアは日本統治時代の政治行政区画を継承し、一つの国家として独立を迎えるであろうと予測した。

ミクロネシア地域においては元々、古い時代にニューギニアやフィリピンから到達した民族などがいくつもの島で生活し、島同士で交易などもおこなわれていた。

ただし文字文化を生み出した民族はなく、ミクロネシア史の研究は遅れている。

江戸時代後期には、約 20 人の日本人がグアムに漂着し、地元社会に同化して余生を送り、水田稲作を伝えるなどしたという（今日まで日本名をもつ家系が残っているらしい）。日本統治時代には、少兵の軍隊を置き中心的な島に町をつくっただけのスペインやドイツと異なり、各島に学校や病院を建てて 3 年間の義務教育、2 年間の選抜教育を施し、多くの島民が初めて読み書きができるようになった。農漁業や製糖業でもこの時代に近代的な方法が発展した。ミクロネシアの島々では、草地の中に旧日本軍の砲座や戦車が未だに多く放置されていたり、岸边にトーチカが掘られていたりする。

#### (2) 独立の道

最初の系統的に支配した国はスペイン、それ以降と統治権が引き渡されていく。ただし、最大の島グアム島に関してはスペインからドイツに売却されず米西戦争後の 1898 年からアメリカ領なので、真珠湾攻撃後に日本が奪うまでドイツ・日本の統治時代は経ていない。グアムは現在でもマリアナ諸島の他の島と政治機構等が異なる。

スペイン (18 世紀～) → 売却 → ドイツ (19 世紀～) → 第一次世界大戦 → 日本 (1920-1945) → 第二次世界大戦 → アメリカ → ミクロネシア連邦が

独立。北マリアナ諸島が米国自治連邦区としてアメリカに併合（1986）→ミクロネシア連邦が国際連合に加盟（1990～）

ミクロネシアの「将来の政治的地位」に関する公的ネシア側では、アメリカとの自由連合を結成するにせよ、ミクロネシア側が主権を確保し、アメリカ以外の国家とも自由な外交交渉が可能である政体を要求した。

### （3）文化体験

ピス島で過ごした二泊三日は、島の住民と過ごした時間は私にとって忘れられないものとなった。ピス島にはココヤシ、パパイヤ、イモ、パンノキ、バナナ、カンキツ類などが自生していた。無人島で山本先生と島の住民は魚、貝とカニを獲ってバーベキューした。島のお姉ちゃんは魚を切って、内臓を出し、私も体験した。魚は焼いて（図3-1）、刺身を作って、ごはんはココナツの汁を入れて、ご飯を蒸し食べる（図3-2）。たぶん南方の魚だから、色はいろいろがあつてとてもきれい。たぶん環礁上の島なので、平坦な島。島の周辺は水深が浅く、海が広くて、とても綺麗、特に無人島の海だ。そんな綺麗な海が人生の初めて見た。（図3-3）

島の住民はチューク語が主でしたが、中学生くらいの年齢になると、英語も話せるようになるようでした。島の中には小学校がありますが、教育水準は高くなかった。島で唯一の学校に行って当地の先生と話して（図3-4）、今島の物資とお金を不足ことが聞き取った。ココナツの正しい食べ方を勉強した（図3-5）。米、ガソリンとかの必需品は、島外で購入する必要がある。



(図 3-1)

(図 3-1)



(图 3-2)



(图 3-3)



(图 3-4)



(图 3-5)

#### (4) グアム

グアムは太平洋にあるマリアナ諸島南端の島。1898年の米西戦争からアメリカ合衆国の領土になった。1941年から1944年までは日本軍が占領統治し、「大宮島(だいきゅうとう)」と呼ばれた。マリアナ諸島最大の島で、その南西端に位置する。海底火山によって造られた。北部は珊瑚礁に囲まれた石灰質の平坦な台地で、南部は火山の丘陵地帯である。最高所はラムラム山で標高406m。

グアムで観光客の大半が日本人だったから公用語は英語、チャモロ語であるが、日本語も使われている。

グアム初日はチューク出身でグアムに住んでいる人の家に行って、一緒に食事して伝統料理を食べて、ハワイダンスを学んだ、文化を体験した、有意義な時間を過ごすことができた。

経済面では、アメリカ、日本、ヨーロッパなどからの観光客が重要な位置を占めている。第二次世界大戦の終戦後も現在に至るまでアメリカ軍の太平洋戦略上重要な基地のひとつとしてグアム島は活用され、ベトナム戦争の際も北爆に向かう爆撃機の拠点として使用された。1960年代以降は日本からの観光客を中心とした観光地、リゾート地として発展を遂げている。島の面積の1/3をアメリカ軍用地が占めている。在日米軍再編の影響により、沖縄島に駐屯しているアメリカ海兵隊七千人がグアムに移駐する予定である。

9日、私たちは太平洋戦争国立歴史博物館を訪ねた。博物館の正面には、1艇のみ残った特殊潜航艇が展示されていて、館内で、展示パネルには日本語の説明の音声や映像がある。この博物館で、当時使用されていた武器などを見ることができて、勉強になった。グアム大学では教育学部のYukiko Inoue-Smith, Ph. D. 先生にグアム大学の現状や女性は結婚後に働き続けること、英語の重要性の問題点についてお話しいただいた。

#### 4、おわりに

今回一緒に研修に参加した学生さんと過ごした時間、色々と考えさせられることが多く有意義であった。初めて太平洋島嶼の現状を知ることができた。珍しい機会を得ることができていろいろ勉強になった。一番印象的には太平洋戦争国立歴史博物館に行くことだ。私は中国人として日本で暮らしていくが、グローバルな視野を持って島の問題、国際関係と政治問題に目を向け、世界的な視点でとらえ考えていくことが重要だと思う。最後に、今回のミクロネシア研修機会を与えてくださり、ビザ申請についていろいろお世話になっており、現地においても熱心にご指導くださった山本宗立先生に感謝申し上げます。そして、一緒に研修したメンバーと今回お世話になった関係者の方々に感謝申し上げます。

参考文献：

印東道子：ミクロネシアを知るための 58 章,明石書店,2005,p4

<http://divinfo.blog.fc2.com/blog-entry-146.html>